

## 論文の内容の要旨

論文題目 The Semantic Structure of Motion Expressions in Thai  
(タイ語の移動表現の意味構造をめぐって)

氏名 ケッサクン・ルタイワン

本研究はタイ語における物理的な移動の認識が言語化するパターンを明らかにし、選好されるパターンがどのように使用されるかについて論じることを目的とする。本稿では Talmy(1985, 1991, 2000)の事象統合の類型論をモデルにして研究を進めるが、タイ語のデータに基づいて、先行研究である Talmy(1985, 1991, 2000)とは異なる新しい提案を行なう。本研究ではタイ語の経路述語が動詞でもあり同時に助辞でもあるという二面性の機能を果たす(versatile)ということが重要な主張である。しかしタイ語の経路述語の多用性(versatility)は任意ではなく寧ろ談話の要因も含む包括的なイベントタイプによって条件づけられている。本研究は以下の構成に従って成り立っている。

第1章では移動動詞の先行研究を簡潔に検討している。まず、移動事象に関する類型論的研究に触れる。Talmyの「動詞枠付け型言語(verb-framed language)」対「助辞枠付け型言語(satellite-framed language)」の類型論を典型的な例文で紹介し、またこの論題を中心とした最近の研究も紹介する。次に英語・日本語・そしてタイ語を取り上げて移動動詞の分類のアプローチを調べる。最後に、タイ語の移動に関する動詞連鎖の統語構造を再考察する。本論では自発移動(spontaneous motion)の場合、動詞連鎖の統語構造は平らで反復的な動詞句(flat iterative VP)であるのに対し、使役移動(caused motion)では先行事象が後行事象を導く( $E_1$  CAUSE  $E_2$ )階層的構造であることを提案した。

第2章ではタイ語の移動動詞の体系的な調査が提供される。取り上げる主要なカテゴリーは様態動詞・方向動詞・経路動詞・ダイクティック動詞・そして使役的な移動動詞である。また動詞性をテストする基準及び動詞連鎖の可能性も考察する。ここで挙げる「様態・方向・経路・ダイクティック」という四つのカテゴリーは動詞連鎖の基準スキーマ(Basic SVC Schema)と呼ぶ(図1を参照)。そしてこの動詞連鎖の基準スキーマの拡張として二つのパターンが観察できる(図2を参照)。つまり、拡大(magnification)になるか再帰(recursion)になるかという拡張形式に分かれる。

第3章では各移動事象におけるタイ語の経路動詞が二面性をもった機能を果たすという重要な特徴について具体的に論じる。即ち経路動詞は名称通り動詞でもありながら、状態変化の意味を寄与する文法語でもある。また、Co-event 様態・原因を考慮に入れると二タイプの自発移動と使役移動についての結合化するパターンの違いが見られ、イベント統合様式の分化が明らかになった。つまり、自発移動の場合、移動体が自らの意思で移動するイベントタイプでは Co-event 様態を省略することが可能であるのに対し、移動体の意思性

が伴わない自発移動と使役移動の場合 Co-event 様態・原因を省略することが不可能であることが分かる。また、各イベントタイプの構文拡張も記述した。(図4を参照)

第4章ではタイ語の談話レベルにおいて移動事象の選好される言語化パターンを論じる。談話内における移動事象の選好される言語化パターンは談話タイプによって条件づけされると見られる。また通言語的な考察も行われる。ここでは談話のデータを中心に各イベントタイプのパターンをめぐって分析した。結果として第3章で作例を中心に分析した結果との違いが見られた。つまり、作例の場合はイベント統合様式が明確に分化するのに対し、談話データを分析する場合、分化する傾向は見られつつも、自発移動と使役移動両方とも動詞連続の特徴である「Co-event 様態・原因+経路+ダイクティック」という組み合わせからなる SVC が重要な役割を担っているということである。

第5章では類型論的な観点から見ると、助辞砕付けタイプの英語は、談話内においては VP-compacting スタイルで移動事象を表現している。それに対して動詞砕付けタイプの日本語の場合は、VP-chaining スタイルで主に幾つかの動詞がテ形で繋がって表現されている。そして、タイ語の場合は日本語と同様にたくさん動詞が並んで出てくるケースが多いが、日本語とは異なってタイ語では動詞連鎖内でどれが主要部なのか簡単に決められないため、表現形式のスタイルが異なってくる。つまり、タイ語の場合 VP-stacking スタイルで移動事象を表現するわけである。(表1を参照)

本論文ではタイ語を中心に論じると同時に、必要に応じて英語と日本語をも比較しつつ記述している。しかし、この両言語に関する移動事象の具体的な分析は本論文の範囲を超えて扱われていないことを述べておく。

図 1 動詞連鎖の基準スキーマ(Basic SVC Schema)

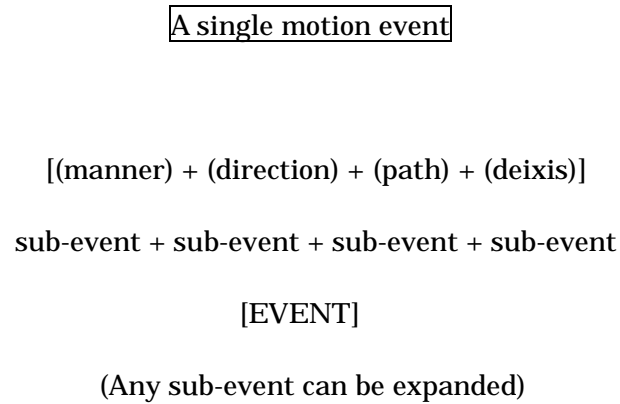
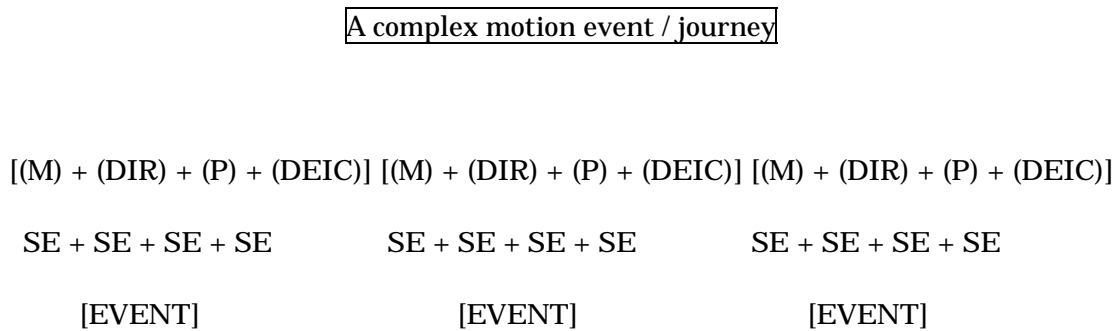


図 2 動詞連鎖の拡張した基準スキーマ(Expansion of the Basic SVC Schema)



☒ 3

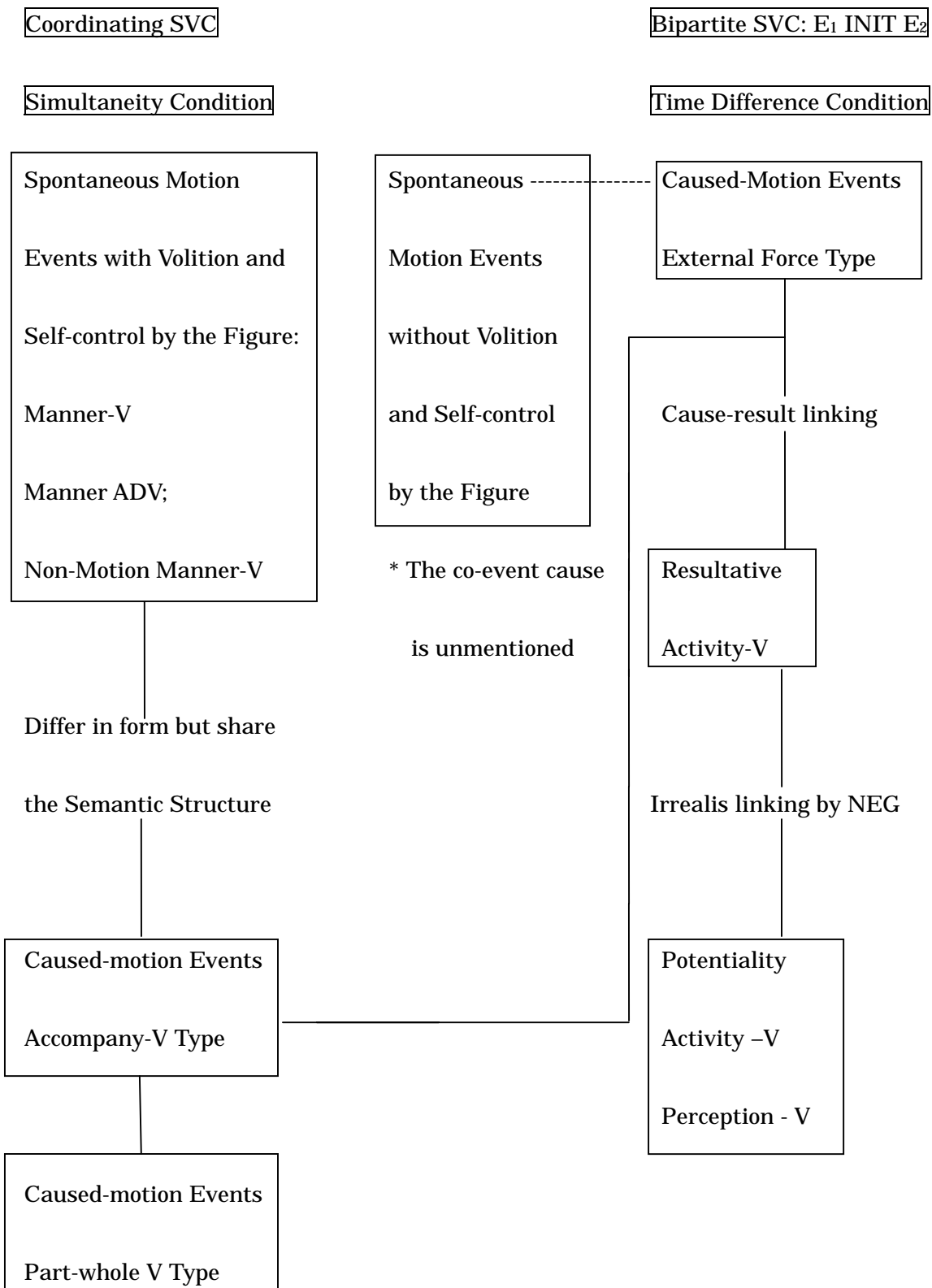


表 1 談話内の英・日・タイ語の移動表現に関する特徴

	<b>Density of verbs per clause</b>	<b>Frequency of manner verbs</b>	<b>Journey</b>	<b>Style</b>
English	low	high	satellites	VP-compacting
Japanese	high	low	V-te form	VP-chaining
Thai	high	high	SVC	VP-stacking